

丹後の感染症情報をお届けするメール通信

感 | 染 | 症 | 情 | 報 | @ | 丹 | 後 |

第1号 (2015年08月03日発行)

こんにちは、丹後保健所 保健室 感染症・難病担当です。

本日、感染症の診療に携わる医療関係者の皆様へ感染症の関連情報をお届けするメール通信『感染症情報@丹後』を創刊しました。

丹後保健所に届出か報告のあった感染症について、医療関係者の方に知っていただきたい情報をピックアップしてお届けいたしますので、是非、日常の感染症診療にお役立てください。

不定期の発行となりますが、皆さまからの御意見などもお待ちしております。

<主な内容>

- 管内で発生した結核事例の報告（その1）
- SFTS発症事例報告
- 手足口病が流行しています

■管内で発生した結核事例の報告（その1）■

近所の支援とかかりつけ医の専門医紹介で早期発見につながった 90代女性Aさんの事例

一人暮らしのAさんはもともと健康で、子どもたちの独立、夫の死後も自立した生活をしていました。しかし、今年6月初旬頃より食欲低下、自力歩行不可等の症状が出始め、買い物等の外出が困難になっていました。

見かねた近所の方が、食事を運ぶなどの支援を行っていましたが、日に日に弱っていくAさんを心配し、かかりつけ医を受診させました。かかりつけ医ではすぐに胸部X線検査が実施され、結核の疑いで、北部医療センター呼吸器内科を紹介受診、喀痰検査で感染性の肺結核と診断され、7月8日に結核病棟へ入院となりました。

Aさん入院後、かかりつけ医より「職員の接触者健診はどのように実施すれば良いか」と保健所へ相談がありました。

保健所では感染性の肺結核発生時は所内検討会を実施し、接触者健診の範囲と健診内容を決めています。今回は、近所の支援者を濃厚接触者とし、直後と2ヶ月後にIGRA検査（結核抗体検査）と胸部X線検査を実施。また上記以外の近所の接触者については2ヶ月後のIGRA検査を実施することとし、かかりつけ医の医師には、職員の胸部X線検査とこの機会にベースラインとしてのIGRA検査実施をお願いしました。

●この事例のポイント●

●近年の結核サーベイランスのデータによると、定期健康診断で発見される人は全体の1割程で、ほとんどの人が有症状受診や他疾患外来通院中または入院中に医療機関で発見されています。

2週間以上続く咳がある患者には、肺結核を疑って胸部X線検査および喀痰検査（連続3日が望ましい）を実施することが重要ですが、高齢者では咳や痰などの呼吸器症状がない場合も多いので、発熱、食欲不振、体重減少、倦怠感等の症状でも結核を疑った対応が必要です。

●丹後管内では毎年25件程度の結核の新規発生があり、接触の機会の多い医療従事者の健康管理は重要で、定期健康診断の確実な実施をお願いしています。採用時のIGRA検査実施が望ましいですが、していない場合は、接触後2週間以内のできるだけ早い時期にIGRA検査を行うことで、ベースラインの代用とすることができ、接触2ヶ月以降に陽転すれば、感染があったと判断し、予防内服の対象となります。

☆参考文献☆

- 1) 結核院内（施設内）感染対策の手引き 実際に役立つQ & A
- 2) 日常の診療の中で肺結核を見落とさないために
- 3) 感染症法に基づく結核の接触者健康診断の手引き（改訂第5版）

■SFTS発症事例報告■

平成27年6月16日に、北部医療センターから丹後保健所に重症熱性血小板減少症候群（SFTS）感染症が疑われる患者の発生に関する情報提供があり、国立感染症研究所において確定検査を行った結果、6月23日に京都府内で初めてのSFTS感染症患者であることが確定しました。

日本国内では2013年1月から患者発生が報告されており、今年5月末時点で全国で122人の感染を確認。SFTSウイルスを持つマダニにかまれると、6日～2週間ほどの潜伏期を経て、発熱、吐き気や下痢などの消化器症状、血小板減少などが認められます。SFTSは4類感染症に分類されており、保健所への届出疾患となっていますので、下記の要件を満たす患者の受診、相談等があった際は速やかに保健所へ情報提供をいただきますようお願いいたします。

●SFTSの臨床特徴●

38度以上の発熱と消化器症状（嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血のいずれか）を呈し、血液検査所見で血小板減少（10万/mm³未満）、白血球減少（4000/mm³未満）及び血清酵素（AST、ALT、LDHのいずれも）の上昇が見られる。致死率は10～30%程度

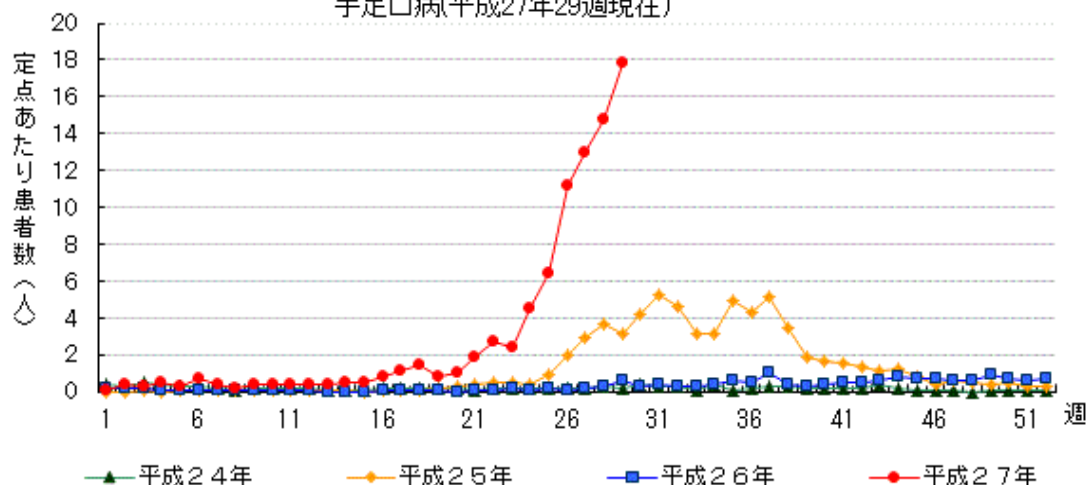
■手足口病が流行しています■

京都府内で手足口病の流行が止まらず、29週で定点あたり 17.81（前週 14.78）となっています。28週まで落ちていた京都府北部でも患者が増加し、丹後保健所管内も定点あたり 10.25 と警報レベル（定点あたり 5.0）を超えました。

手足口病は口腔内や手のひら、足の裏に水疱を認めるウイルス感染症で、咳・くしゃみの飛沫やオムツ交換などで排泄物を触ることから感染し、患者のほとんどが 5 歳以下の乳幼児です。多くのケースは発症後 3-7 日で自然軽快しますが、まれに髄膜炎・脳炎を起こすことがあります。症状軽快後も 3-4 週間は大便にウイルスが含まれるという報告もありますので、オムツの処理等に注意が必要です。

京都府感染症発生動向調査

手足口病(平成27年29週現在)



★編集・発行★ 京都府丹後保健所 保健室 感染症・難病担当
〒627-0011 京都府京丹後市峰山町丹波 855
電話：0772-62-4312 FAX：0772-62-4368

27年度の感染症・難病担当メンバーです。よろしくお願ひします。

中村清康（診療放射線技師）**安心の感染症リーダー**

田邊文子（保健師）京丹後市担当 **保健師歴だけは一番長い**

上田真理子（保健師）伊根町担当 **現在は特定医療費申請に追われる日々**

伊東寛人（保健師）宮津市担当 **主は難病担当ですが、感染症もがんばります**

船越瑞貴（保健師）与謝野町担当 **採用1年目で初の結核患者搬送にドキドキ**